

妊娠初期HIVスクリーニング検査陰性例から 生じた母子感染に関する検討

都立大塚病院 産婦人科¹⁾、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班²⁾

桃原祥人¹⁾、杉浦敦²⁾、竹田善紀²⁾、市田宏司²⁾、中西美紗緒²⁾、箕浦茂樹²⁾
松田秀雄²⁾、高野政志²⁾、桃原祥人²⁾、小林裕幸²⁾、佐久本薫²⁾、太田寛²⁾
石橋理子²⁾、藤田綾²⁾、高橋尚子²⁾、吉野直人²⁾、山田里香²⁾、定月みゆき²⁾
田中瑞恵²⁾、外川正生²⁾、喜多恒和²⁾

日本エイズ学会 利益相反 開示

第32回日本エイズ学会学術集会・総会

演題名：妊娠初期HIVスクリーニング検査陰性例から生じた母子感染に関する検討

筆頭発表者：桃原 祥人

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

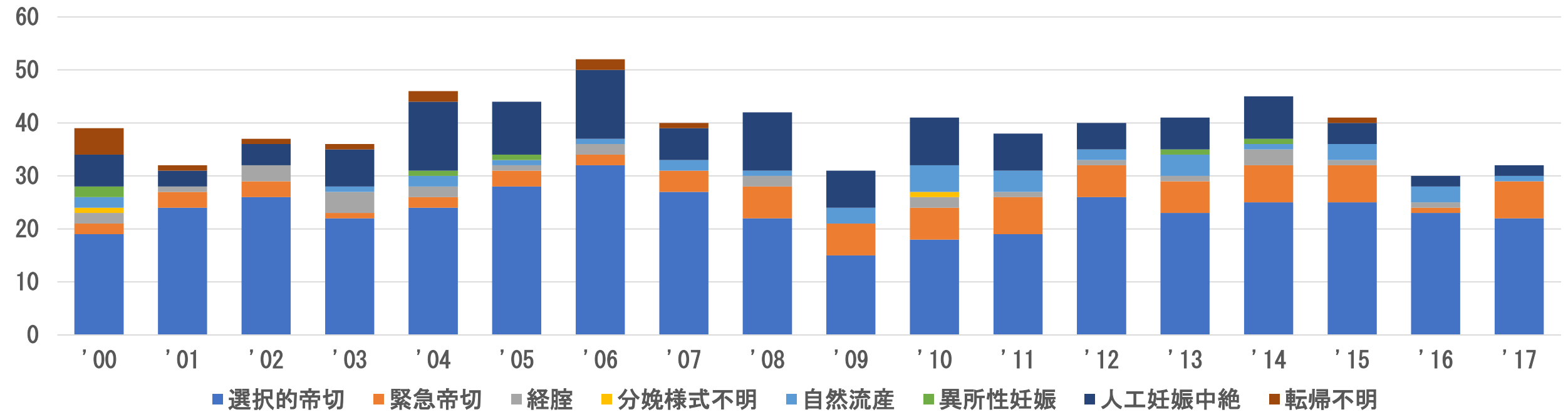
【目的】

現在、厚労省科研費エイズ対策政策研究事業のHIV母子感染に関する研究班が推奨する母子感染予防対策を100%施行した場合、HIV母子感染は生じていない。しかし母子感染は散発的に発生し続けている。
その原因のひとつとして、近年、妊娠初期HIVスクリーニング検査が陰性であった例からの母子感染が報告されている。
そこで今回、妊娠初期HIVスクリーニング検査が陰性でありながら母子感染が生じた症例の背景を解析し、今後の対応策を検討した。

【方法】

研究班が1999年～2017年の間に全国調査にて集積したHIV感染妊娠1027例のうち、妊娠初期HIVスクリーニング検査が陰性にも関わらず母子感染が生じたと考えられる6例を対象とし、その臨床的疫学的情報を解析した。

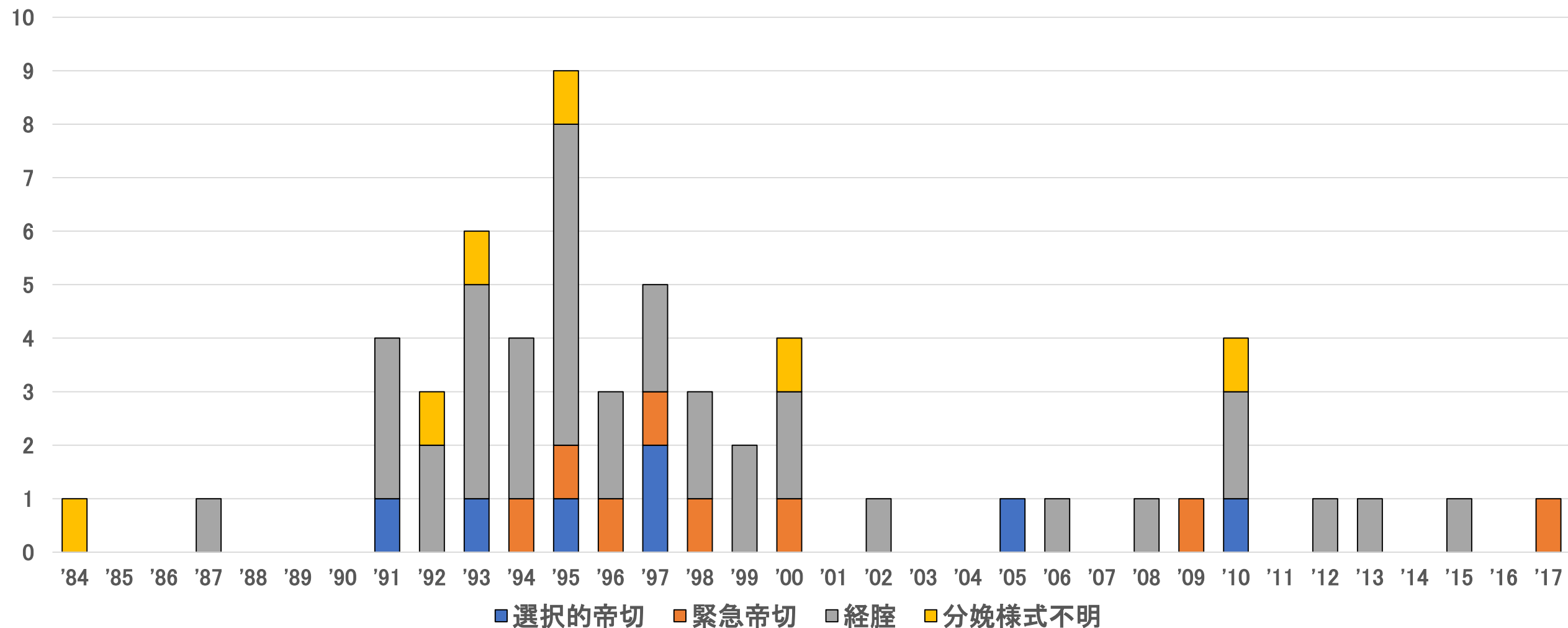
分娩様式別推移



- ・母子感染予防策としての帝王切開分娩が大多数を占め、経膣分娩はごく少数となっている
 - ・HIV初期スクリーニング検査施行率は99.9%となっている
- しかし、母子感染は**経膣分娩例**から多く生じている

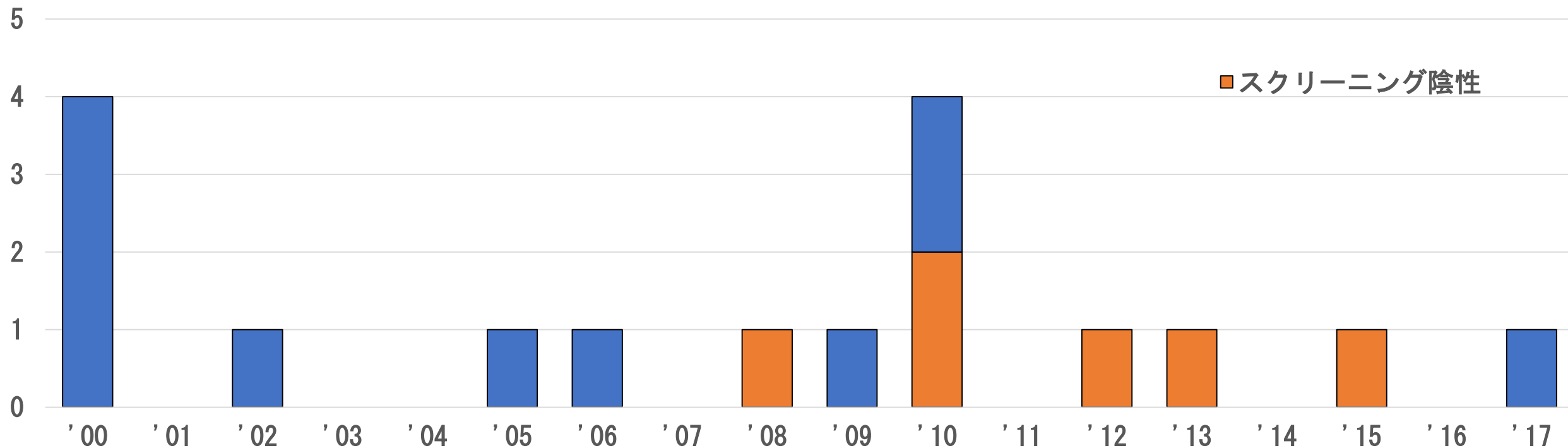
つまり、妊娠中にHIV感染が判明しない=**妊娠初期スクリーニング検査陰性例**
=母子感染予防策が全く施行されていない症例
からの母子感染例が問題となる

HIV母子感染58例の転帰年と分娩様式



cARTが発展した2000年以降の母子感染は、**経膣分娩例が66.7% (10/15、様式不明を除く)**を占める

HIV初期スクリーニング検査陰性例からの母子感染例



2000年以降の母子感染例17例中、**初期スクリーニング陰性例からの分娩が6例(35.3%)**を占める

(過去10年間では**60%(6例/10例)**を占める)

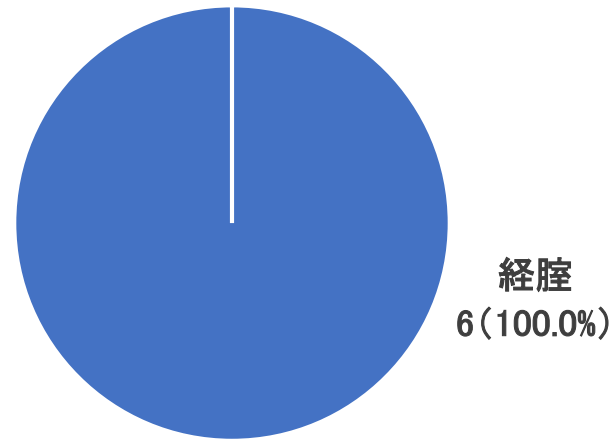
感染判明時期

次子妊娠時に、母親のHIV感染が判明し、児を検査したところ母子感染が判明した例が6例中4例を占める

他2例

- ・分娩後パートナーのHIV陽性が判明し、母児を検査したところHIV感染が判明
- ・検査契機は不明

分娩様式

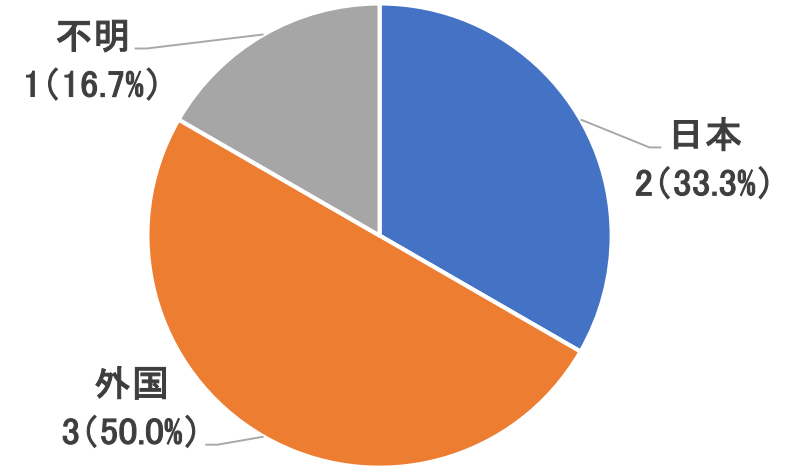


全例が経膣分娩となっており、在胎週数が判明している症例では、1例を除き正期産である

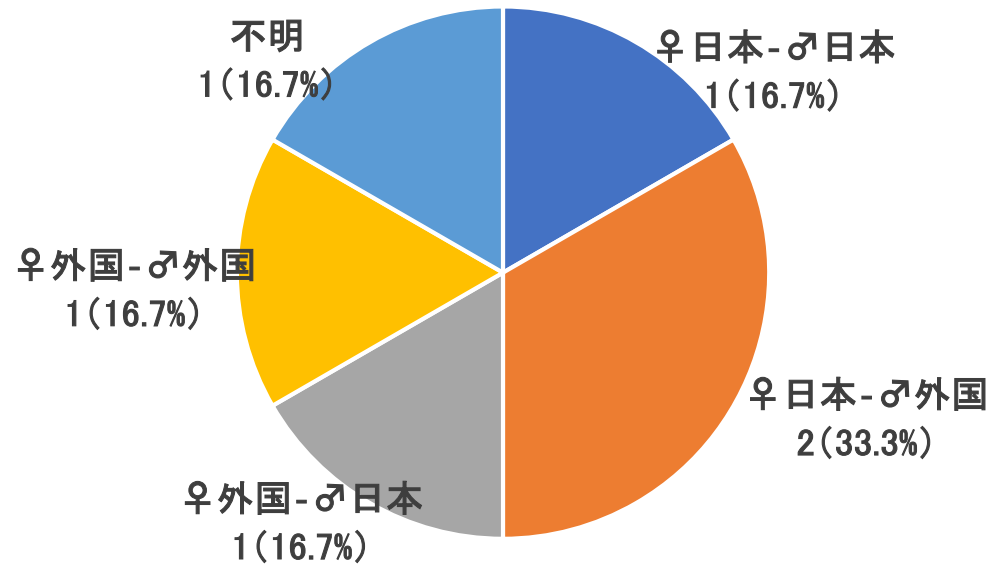
妊婦の国籍



パートナーの国籍

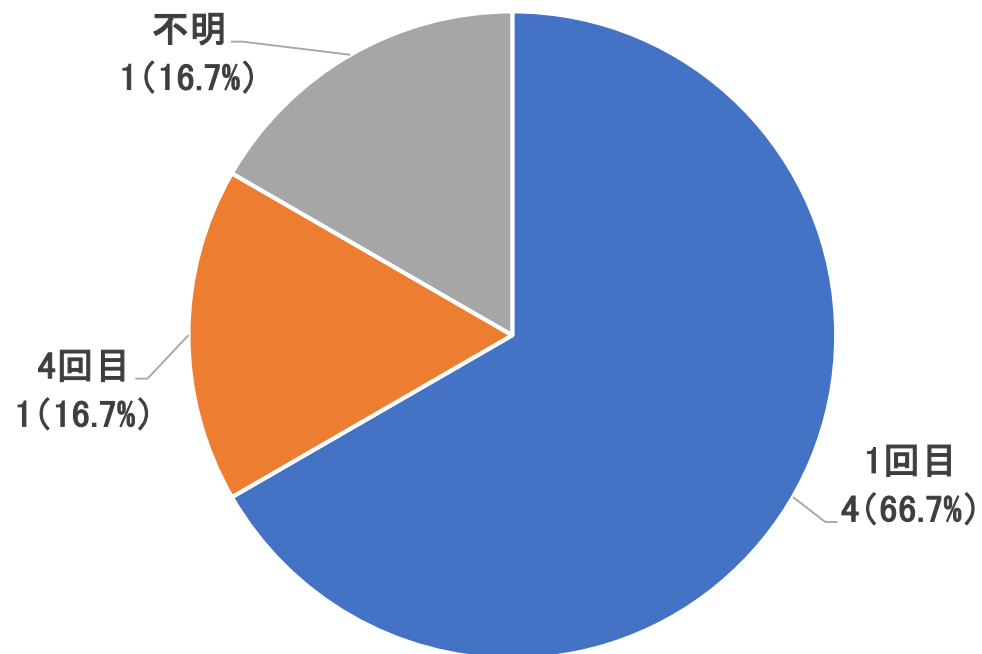


妊婦とパートナーの国籍組み合わせ



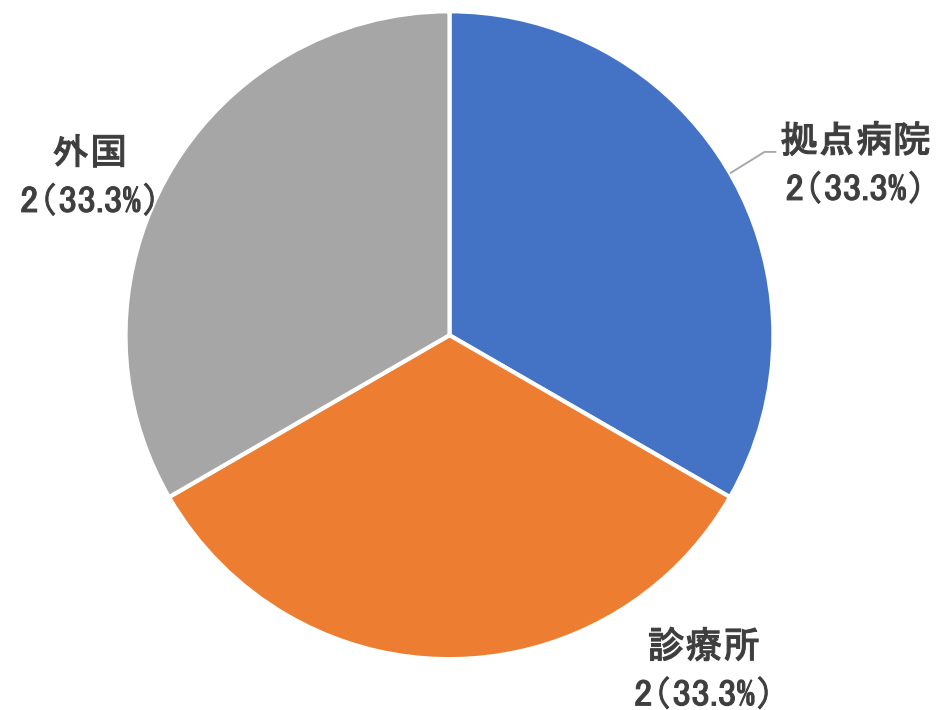
国籍に明らかな傾向は認めない

妊娠回数



初産が多い傾向にある

転帰場所



転帰場所に差異は認めない

問題点

- ・ 妊娠中に**複数回**のHIVスクリーニング検査を施行することは困難
 - ・ **分娩直前にスクリーニング検査偽陽性例**が発生した場合、分娩施設・分娩様式などの対応が混乱する可能性がある
 - ・ **授乳中**にも母子感染が生じる可能性はあり、初期スクリーニング陰性例でいつ母子感染が生じていたか特定することは不可能である
- 社会において妊娠中・産褥期に関わらず、**いつでもHIV感染は生じる**ことを教育し、周知することが唯一の感染予防対策となるか？

【結論】

近年薬剤の発展等に伴い母子感染予防対策が確立し、HIV母子感染は**予防可能**になったことは事実である。しかし母子感染例は発生し続け、以前のように**スクリーニング検査未施行例ではない症例**から母子感染が生じている。

このような症例に対する母子感染予防対策は非常に困難であるが、HIV感染のリスクを**早期に察知し感染の有無を検索**することが重要と考える。